Ⅰ　実践

1　研究主題

人権を尊重しようとする心情が深まる人権教育の在り方

（1）主題設定の理由

本校は、「夢をもち　共に学び　きたえ合う　心豊かな生徒の育成」を教育目標に掲げ、「愛情いっぱい」を合い言葉に教育活動に取り組んでいる。めざす生徒の姿は、「勤勉」「誠実」「健康」を掲げ、とりわけ「誠実」については「他者を理解し、思いやりのある生徒」としている。これを受けて、《心プロジェクト【徳】》では、人権教育を柱に、「自他を尊重し、思いやりをもって接することのできる生徒の育成」「自己有用感をもち、互いに高め合うことのできる生徒の育成」を目指した取り組みを『学校教育プラン』に位置付けている。

本校は、全校生徒１５８人の小規模校であり、生徒同士の関係が密であると共に、先輩・後輩の間柄も穏やかな雰囲気がある。一方、不用意な発言や態度がもとで相手が傷つき、孤立した事例もある。核家族、少子化家庭が進み、また子どもたちの遊ぶ環境はテレビゲーム、会話の環境は携帯電話等のメールのやりとりが中心であるため、直接的に人との関わりを学ぶ機会が少なくなっていることが一因と思われる。これは、相手を思いやったり、お互いを尊重したりする態度が希薄になることにつながっていく。

そこで、「相手の身になって考え、相手のよさを見つける」「お互いに協力し合って自分の力を地域社会や学年学級に役立てようとする」「学校・学年・学級が一人一人の生徒にとって存在感を実感できる」態度を養うことを重点目標として、本主題を設定した。

（2）研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

（3）研究内容

ア　学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通して、人権尊重の精神を育む。

イ　人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営を行う。

2　実践内容

（1）基底的指導における実践

ア　生活委員会を中心に、「あいさつ運動」や「さわやかマナーアップ運動」を１年間通して行った。特定の人だけでなく、誰にでも明るく元気にあいさつができるように朝の登校時間を中心に取り組んだ。

イ　人権尊重に掛かるポスターや掲示物を作成・掲示し、人権意識の啓発を図った。

ウ　人権作文や人権メッセージ等に応募し、人権について考える機会とした。

エ　友人関係の実態把握、生活アンケート調査やQ-Uテストの分析・活用を行った。

毎朝のあいさつ運動の様子

掲示物「感謝の気持ちを伝えよう

掲示物「人権メッセージ クラス代表作品」
本年度、中学校の部で県の優秀賞を受賞

（2）各教科における実践

ア　実践例　学び合い　１～３年

（ア）ねらい　自己肯定感を育てると共に、他者の存在を論理的にも情緒的にも受容する。

（イ）内容

学習課題に対する自分の考えや意見を伝えたり、お互いの考えや方法の良さに気付くことを大切にする。自他の解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返り、互いに学び合う。

（ウ）活動の様子

グループ学習など、協力して活動することを通して「学び合う仲間」であることを実感できる雰囲気が醸成され、お互いの考えや方法の良さに気付くことができた。

（３）道徳の授業における実践

ア　実践例　１年

（ア）　資料名　「言葉の向こうに」

（イ）　ねらい　インターネット上の書き込み欄を通じして、様々な意見があることを知り、周囲の人と関わりあうためには、互いの立場や意見、考えを尊重し認め合おうとする道徳的心情を育てる。

（イ）　内容

本資料は、サッカーファンのインターネットサイトで交流している主人公が、心ない書き込みに対し、自分もひどい言葉で応酬してしまい、サイトのファン仲間に迷惑をかけ注意され、ネットでの言葉のやり取りの難しさや恐ろしさに直面する話である。自分の発する言葉の先に、それを受け取る「顔をもった他者」がいることを想像することで、より良いコミュニケーションが築けることに気付く資料である。

（ウ）　活動の様子

生徒たちにとっても身近な題材で有り、感情的な言葉の応酬が招く結果について多くの感想や意見が出た。コミュニケーションをする上で見失っていたものは何かを考えさせることで、直接やり取りしている相手ばかりでなく、それを読んでいる第三者の存在にも思いを巡らし、多様な考えに心を開き、相手の立場を尊重することの大切さに気付くことができた。

（４）総合的な学習

本校の総合的な学習のテーマは、「キャリア教育」である。「キャリア教育」の内容の中で人権教育と結びついた内容をいくつか実践している。各学年の発達段階や生徒の実態を考慮すると共に、３年間を見通した活動内容を決めている。

ア　実践例　エコサイクル（平沢中学校学区内の再生資源の回収活動）１～３学年

（ア）　目的　地域での資源回収活動を通して、働くことの意義について考えさせ、奉仕の心や他の人と協力し合う態度を育てる。

（イ）　内容　グループでの回収活動、積み込み、仕分け等

（ウ）　活動の様子

JRC 委員会の計画のもと、異学年グループごとに地域を回り、再生資源の回収活動に取り組んだ。また、生徒会が中心となり、エコサイクルの収益金の一部と文化祭での募金を合わせて熊本地震被災地への支援を送った。この活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度を育てることができた。

（５）ボランティア活動の実践

ア　実践例　仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動

（ア）　目的　福祉体験的な活動に取り組むことを通して、心豊かな生徒の育成を図る。

（イ）　内容　５月１４日（土）～１２月１１日（日）　計１１回

除草作業、通学路清掃、防災訓練、仲町学区祭り、敬老会参加など

（ウ）　活動の様子

JRC 委員会を中心として、部活動単位や有志など、毎回多くの生徒が積極的に参加した。人の役に立つ活動を通して、社会奉仕に伴う喜びを知り、社会への奉仕の意義について考えを深めることができた。

エコサイクルの様子

仲町学区祭り

かるた大会

３　成果

・ 上記の実践を行っていく上で､本校の特徴として異学年でグループを組み活動する機会が多い。上級生は、下級生に様々な配慮をしながら活動している。その様子を見て、下級生は上級生をお手本に行動を学習する、という体制ができている。学び合いながら他者を理解し、人を大切にする気持ちが育っていると考える。

・ 地域と密着した継続的な体験活動では、周囲の方々の励ましやねぎらいの言葉をいただき、地域への愛着と共に自己有用感を満たすことにつながっている。

Ⅱ　今後の課題

教育活動全体を通じて人権に対する取り組みを、さらに充実させていきたい。同じ環境で生活している仲間への思いやりはもとより、外国人、障害者等への人権意識啓発も図りたい。